2026 年 11 月 12 日

三井不動産株式会社
日鉄エンジニアリング株式会社
藤寿産業株式会社

三井不動産インダストリアルパーク(MFIP)として初受賞
MFIP 海老名 ＆forest が「ウッドデザイン賞 2026」を受賞
～三井不動産グループの木造建築ブランド「＆forest」第 1 号竣工物件～

本リリースのポイント

- 「MFIP 海老名 ＆forest」が「ウッドデザイン賞 2026」を受賞。三井不動産インダストリアルパーク(MFIP)としては初の受賞。
- 物流・研究施設・ラボ機能を備えた複合業務施設として 2026 年 6 月に竣工。複数テナント型の物流用途を含む施設として国内で初めて※1 建物構造の一部に木造を採用。
- 木の温もりが感じられる共用空間や三井不動産グループ保有林材の活用を通じ、働く人の快適性向上と森林資源の循環に貢献。

三井不動産株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:植田 俊、以下「三井不動産」)、日鉄エンジニアリング株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:石倭行人)、藤寿産業株式会社(本社:福島県郡山市、代表取締役社長:西村義一)は、2026 年 6 月に竣工した「三井不動産インダストリアルパーク海老名(MFIP 海老名) ＆forest」(以下「本施設」)が、このたび一般社団法人日本ウッドデザイン協会が主催する「ウッドデザイン賞 2026」において、ハートフルデザイン部門(建築・空間分野)で受賞しましたので、お知らせいたします。

本施設は、物流・研究施設・ラボ機能を備えた複合業務施設として、2026 年 6 月に竣工しました。三井不動産グループの木造建築ブランド「＆forest」の第 1 号竣工物件として、「木がつなぐ、産業と人と未来」をコンセプトに、大規模産業施設における新たな木材活用モデルの実現を目指しました。木の温もりを感じられる空間の創出と、グループ保有林材の活用により、働く人の快適性向上と森林資源の循環に取り組んでいます。

今回の受賞は、三井不動産インダストリアルパーク(MFIP)として初めてとなります。三井不動産グループでは、木造建築ブランド「＆forest」のもと、木材活用を通じた森林資源の循環に取り組んでいます。今後も、本施設での取り組みをはじめ、さまざまな用途の施設における木材活用を推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



MFIP 海老名 ＆forest 外観写真

ウッドデザイン賞受賞
JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2026

■本施設の「ウッドデザイン」におけるポイントは以下の 3 点です。

1. 大規模産業施設における木造化への挑戦

・複数テナント型の物流用途を含む施設として国内で初めて、建物の 1 階から 4 階にわたる共用部の一部に木造を採用。

・構造には木造柱と木鋼ハイブリッド梁を採用。国土交通大臣認定を受けた 2 時間耐火構造部材により、安全性を確保しながら、木の温もりを感じられる開放的な空間を実現。

2. 木の温もりと森林の自然音を生かした快適な空間づくり

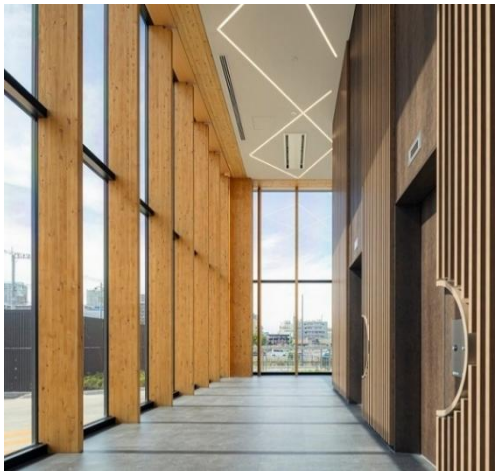
・3 階の「Forest Lounge」には、北海道美瑛町のグループ保有林の木材を用いた家具や、森林の自然音を再現する音響システム「KooNe」※2を導入。

・木の風合いや自然の音に包まれてくつろげる空間を整備し、働く人のリラックスや快適性の向上を促進。

3. 三井不動産グループ保有林材の活用による森林資源の循環

・グループ保有林から採取したトドマツ材等を、柱・梁の仕上げ材や屋内階段、家具、エントランスのアート作品などに幅広く活用。

・木材の伐採・搬出から現場施工までのトレーサビリティを確保し、三井不動産として初めて SGEC プロジェクト CoC 認証※3 を取得。



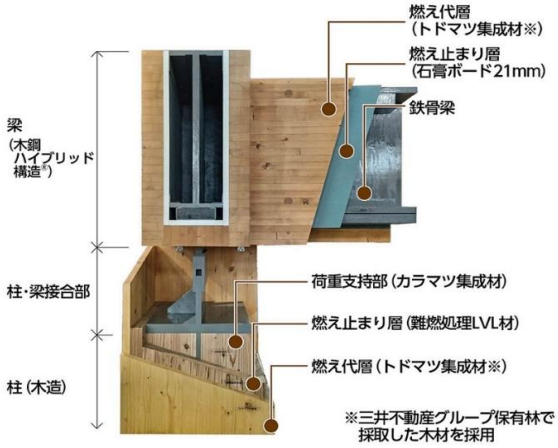
木造共用部 内観



木造共用部 外観



木質化した屋内階段



木造構造部イメージ

SGEC SGEC/31-31-1731 持続可能な森林管理の促進

SGEC プロジェクト CoC 認証



メインエントランス



Forest Lounge

※1:（株）日本ロジスティクスフィールド総合研究所調べ
※2:「KooNe(クーネ:ハイレゾ空間音響デザインソリューション)」:株式会社 JVC ケンウッドの登録商標
※3:SGEC／PEFC 認証森林由来の木が、加工・流通を経て建築物等のプロジェクトで使用されるまで、適切に管理・追跡されていることをプロジェクト単位で第三者が証明する CoC 認証の一形態。

■ウッドデザイン賞について

ウッドデザイン賞は、一般社団法人日本ウッドデザイン協会が主催する、木で暮らしと社会を豊かにするモノ・コトを表彰し、国内外に発信するための顕彰制度です。建築・空間をはじめ、技術・建材、プロダクツ、コミュニケーションなど幅広い分野を対象とし、木材の活用を通じた社会課題の解決や新たな価値の創出につながる取り組みを顕彰しています。

ウッドデザイン賞公式サイト:https://www.wooddesign.jp/

■物件概要

所在地	神奈川県海老名市中央 5 丁目 2 番 1 号
アクセス	圏央道「海老名 IC」 約 2.8km 小田急線・相鉄線「海老名」駅より 徒歩 9 分 JR 相模線「海老名」駅より 徒歩 11 分
敷地面積	約 19,823 ㎡(約 5,996 坪)
延床面積	約 40,219 ㎡(約 12,166 坪)
規模・構造	地上 4 階建て・鉄骨造一部木造
用途	事務所および倉庫
設計・施工	日鉄エンジニアリング株式会社
木材加工・施工	藤寿産業株式会社
内装・外装デザイン	JACKSON TEECE
着工	2025 年 4 月 1 日
竣工	2026 年 6 月 30 日

■三井不動産の物流施設事業について

三井不動産は、2012 年 4 月に物流施設事業部(現 ロジスティクス本部)を立ち上げ、本格的に物流施設開発に取り組んでおります。三井不動産は、これまで、「MFLP 船橋Ⅲ」などの旗艦ブランド「三井不動産ロジスティクスパーク(MFLP)」のほかに、物流用途のみならずオフィス・データセンター等の複合用途施設として「三井不動産インダストリアルパーク(MFIP)」を国内外で開発施設 90 物件(国内:71 物件 海外:19 物件)を展開しており、今後も積極的に新規展開を図ってまいります。また、「ともに、つなぐ。ともに、うみだす。」を事業ステートメントとして掲げ、入居企業の皆さまの課題解決パートナーとして、多種多様なヒト・モノ・コトをつなげること、既存の枠にとらわれない価値づくりに挑戦してまいります。

■三井不動産グループの保有林について

三井不動産グループは、「＆」マークに象徴される「共生・共存」「多様な価値観の連繋」「持続可能な社会の実現」の理念のもと、グループビジョンに「＆EARTH」を掲げ、社会・経済の発展と地球環境の保全に貢献する活動の一環として、北海道に約 5,000ha(東京ドーム約 1,063 個分)の森林を保有しており、「植える→育てる→使う」のサイクルをまわし続けながら、持続可能な森林経営による“終わらない森”創りに取り組んでいます。

https://www.mitsuifudosan.co.jp/and_forest/



“終わらない森”創りのサイクル



三井不動産グループの保有林のトドマツ

≪参考 1≫三井不動産グループの木材活用について

三井不動産グループは、木造建築ブランド「＆forest」や、三井ホームが誇る木造化技術ブランド「MOCX」、その他各施設における取り組みを含め木材活用を行っています。

https://www.mitsuifudosan.co.jp/business/development/earth/mokuzai/

≪参考 2≫三井不動産グループ木造建築ブランド「＆forest」について

「＆forest」は、2025 年 4 月に定められた三井不動産グループの新たな木造建築ブランドの名称です。三井不動産グループの「＆マーク」における「共生・共存・共創」の理念のもと、三井不動産グループの保有林、「“終わらない森”創り」に取り組むとともに、木造化による木材活用を推進し、自然資源を循環させ、未来につないでいく街づくりに取り組んでいくという想いを込めております。日本の林業において国産木材の使い道の拡大が課題となる中、森林資源と地域経済の持続可能な好循環の実現に寄与するため、三井不動産グループでは、当社事業における建物の木造化に挑戦し、未来につづく持続可能な街づくりに貢献してまいります。



「日本橋本町三井ビルディング ＆forest」
外観イメージ

■三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「＆マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。 2024 年 4 月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY（重点的に取り組む課題）」として、「1. 産業競争力への貢献」、「2. 環境との共生」、「3. 健やか・活力」、「4. 安全・安心」、「5. ダイバーシティ＆インクルージョン」、「6. コンプライアンス・ガバナンス」の 6 つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取り組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】
・「グループ長期経営方針」 https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/innovation2030/
・「グループマテリアリティ」 https://www.mitsuifudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/
・「＆ EARTH for Nature」 https://www.mitsuifudosan.co.jp/business/development/earth/for-nature/

また、2025 年 4 月に、街づくりにおける環境との共生宣言「& EARTH for Nature」を策定し、「環境」を自然と人・地域が一体となったものと捉え、豊かな「環境」を広げ、未来の世代へつなぐ街づくりを推進しています。本宣言における重点課題として、「緑を守り育む」「水の魅力を生かす」「生態系を豊かにする」「地域の想いをつなぐ」「自然資源を循環させる」の 5 つを定めています。本リリースの取り組みは、「& EARTH for Nature」における重点課題の 1 つに貢献しています。



自然資源を循環させる

＜リリース画像のダウンロードサイト＞
https://www.mitsuifudosan.co.jp/press/